

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2022. 6. 28
No.9 文責 荒木秀

個別最適な学びと 協働的な学びの関連

先日、五十嵐先生の5年社会の授業を拝見しました。「低い土地、高い土地、どちらが住みやすいか。移住を考える40代男性妻子持ちに提案しよう。」というテーマでディベートを行っていました。生き活きと発言する子ども達の姿がありました。まさに協働的に学ぶ子どもの姿です。

では、どうして子ども達は生き活きと発言することができたのでしょうか。奈須先生も著書『個別最適な学びと協働的な学び』の中で書いていましたが、研究授業となると、このような協働的に学ぶ場面を取り上げた授業がほとんどです。参観者はその部分だけを見て、そのときの指導者の立ち居振る舞いを真似して同じように実践しようとしています。しかし、ほとんどの場合うまくいきません。大事なのは、そこに至る過程があるということです。

五十嵐先生は、単元の導入で子ども達とゴールの姿（評価）を共有し、そこに至るためにどのような学習が必要か単元計画をしっかりと確認していました。単元の初めの方ではディベートに向け、どのような情報をどのような手段で集めるのか、一斉授業の中で学び方をしっかりと教えます。それを終えると、各自で調べる自学自習の時間です。教科書を読み返す子、インターネットで情報を集める子、図書室に行って資料を探す子。一人一人が個別最適な学びを行いました。この過程があったの、本番のディベートです。一人一人が自分の見つけてきた情報があるからこそ、進んで発言するし、自分と違う考えには質問もします。個別最適な学びと協働的な学びがうまくリンクした単元構成となっていました。

五十嵐先生のすばらしいところがもう一点。しっかりと教材研究を行っていることです。そして、事あるごとに学習指導要領を開いています。指導書も悪くはありませんが、指導書は万人に向けて書かれた物なので、その通りに実践しようとする、どうしても目の前の子どもの姿からかけ離れてしまいます。指導要領で「教科の見方・考え方」を確認し、目の前の子どもの実態に合わせて授業を作っていきたいですね。だから、今回は「移住を考える40代男性妻子持ちに提案」なんですよ。

現在、ディベート第2弾「暖かい土地、寒い土地、どちらが住みやすいか。」に向け、学習を進めている5年生です。ぜひ、授業を見に来てください。そして、ご意見・ご感想をください。